

【テーマ】「CAT2020における大学図書館への影響」 ～CAT2020で図書館の運用がどう変わる?～

【主催】図書館分科会

活動報告

日時：2019年7月8日（月）13:00～17:00
場所：富士通株式会社 汐留本社事務所 6階 プレゼンテーションルーム
出席者：会場参加74名 Web参加68名 計142名

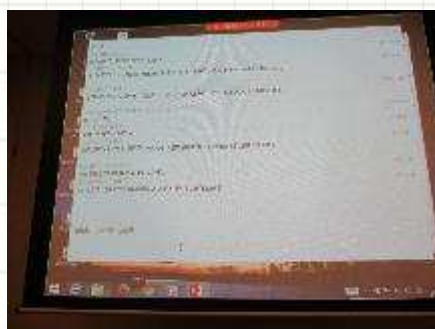
1. 研究内容

2020年に施行されるCAT2020について、これまでCS研でも技術的な説明は行ってきましたが、実際の担当者の運用がどのように変わることについては議論されておらず、システムの開発側と使用する利用者側の間で乖離が発生する可能性があります。

この認識の齟齬を埋めるため、富士通側が考える運用を説明し、それに対してお客様が運用を考えてみた場合の問題点について、議論を行いました。そのため、図書館の運用を「目録・収書」「閲覧・ILL・OPAC」に分けると共に、「システムの移行」をテーマに加えて合計3回の議論を進めました。

2. スケジュール

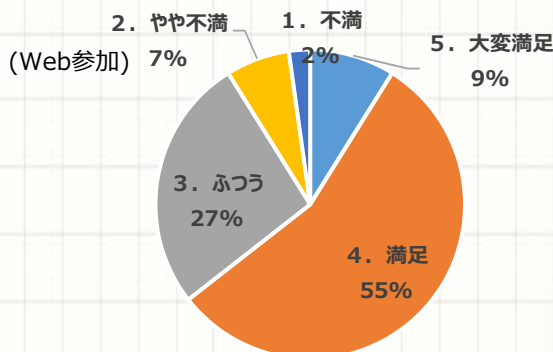
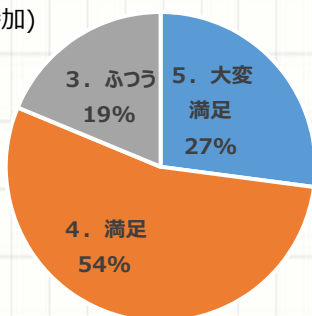
13:00～13:10	全体会 ・事務連絡
13:10～14:25	ワークショップ ・目録 / 収書
14:25～14:35	休憩
14:35～15:30	ワークショップ ・閲覧 / ILL / OPAC
15:30～15:40	休憩
15:40～16:30	ワークショップ ・CAT2020移行方法
16:30～16:40	休憩
16:40～17:00	図書館パッケージ紹介 ・図書館クラウド E.E.



3. アンケート結果について

■ 本日の「プログラム内容」について満足度をお選びください

(会場参加)

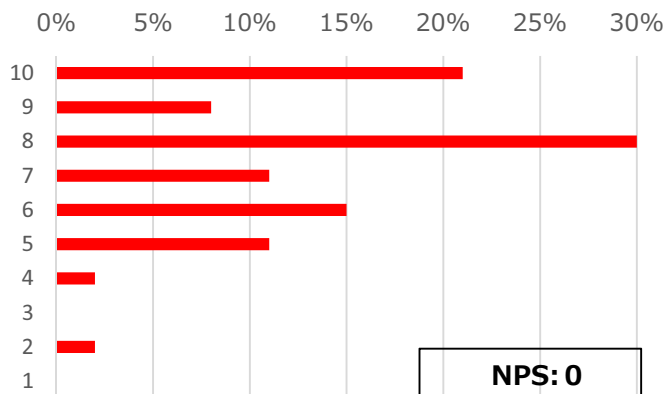


■ 今回の分科会を、どのくらい他の人に推奨したいと思いますか？ 0(おすすめしない) ~10(おすすめしたい)

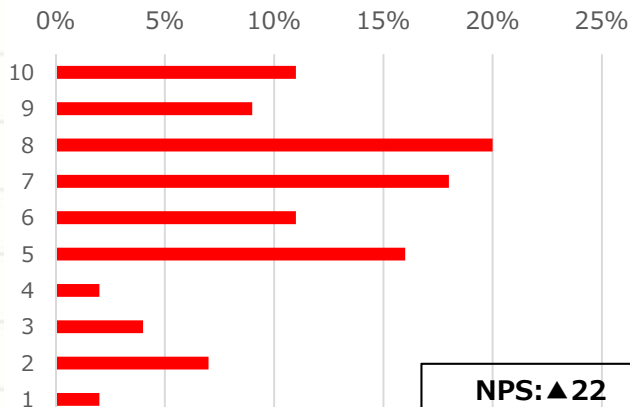
【NPS (Net Promotor Score)とは】

測定方法は推奨者(10,9点)、中立者(8,7点)、批判者(6点以下)に分け、回答者全体に占める推奨者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いた値がNPSのスコアとなります。結果としては数字が大きいほど良いイベントと評価されます。

(会場参加)



(Web参加)



■ NPSの点を付けた理由を具体的にお書きください

(会場参加)

- ✓ 他大学の方とも話ができて、良かった。
- ✓ もう少し大卒のところからお話しただけ良かった。
- ✓ 富士通ユーザーと非ユーザー、富士通の人と話せたから。
- ✓ 館内でまだ満足な情報共有ができていないので、同僚にすすめたいです。
- ✓ 知るべきこと、知っておかなければならないこと、図書館業務未経験者にも受講できる。
- ✓ ワークショップとのことで、対応する実務者でないという意味がない。
- ✓ 特に閲覧系のスタッフに進めたい。
- ✓ i L I S 画面で確認しながら変更点を知れた。
- ✓ グループ分けで小人数でディスカッションできたため、全体的な質疑より意見を出し易くて良かった。
- ✓ 一方的な説明だけでなくグループディスカッションの時間がある点がとても良いとおもいました。説明の内容もわかりやすく、有意義な内容でした。
- ✓ 今回は現場の担当者と同じテーブルになったが、全体では少なそう。
- ✓ i L I S を使用してなくても参加できるが、実際の運用面の話が多く、入りづらい場面もあった。CAT2020をよく知らずに参加している方も多かったのので、「移行について」を最初の方で話していただけたほうが良いと思いました。
- ✓ 東海地区以外の図書館関係者の意見を聞くことができたから。
- ✓ 担当業務に関係する部分は、WEBで参加することを進めたい。
- ✓ 短時間で概要が良く分かった。CAT2020が施行されてからもやってほしいです。
- ✓ 情報共有できると、あり難いと思えましたので。
- ✓ CAT2020というもやっとしたものが、OPAC上で、業務上で、どのような変化をもたらすのか、ようやく具体的に分かりました。
- ✓ CAT2020への移行に対する不安がかなり解消されました。
- ✓ どのような操作が必要になるのか、わかりやすく、SEさんと直接話せるワークショップが良かった。
- ✓ 初めて参加したので他の回の内容を知らないため、何とも言えない。
- ✓ iLISwaveユーザーメインの内容であれば、案内に明示してほしい。
- ✓ 時期、内容ともに非常に良かった。

■ NPSの点を付けた理由を具体的にお書きください

(Web参加)

- ✓ 初めて参加したが、細かい質問に答えていただけたり、他機関の意見が聞けたりするのは、とても有意義だった
- ✓ ただ資料を読むより、説明を聞きながら資料を読む方が分かりやすい。
- ✓ 声が聞き取りにくい時もあった。
- ✓ 通常参加できない多くの人が参加できるこの方法は大変素晴らしいです。良い時代になりました。
- ✓ iLiswave-J導入の図書館では是非とも知っておきたい内容であった。
- ✓ 最低限の情報を得る貴会ではあったから。
- ✓ 図書館で働くうえで、自分自身の勉強になるから
- ✓ 会場でのワークショップ中は何も聞こえず時間のロスが大きい。
- ✓ 内容に関しては勉強になったが、他者に推薦する場合は現地での参加を勧めたい。
- ✓ WEB参加用の専用プログラムがあった方がよかったと思う。
- ✓ WEB参加が可能であったため気軽に参加することができたこと。尚且つ内容も簡潔にまとめられていて要点だけを押さえることができた。
- ✓ 他大学や機関の現場の方のご意見やそれに対する具体的なフィードバックをお聞きすることで何を知らないかを知ることができました。
- ✓ 普段の業務では知りえない情報が収集できる。
- ✓ 閲覧の担当者にはやや難しいと感じた。
- ✓ 行くと勉強になり、大変業務にも役立つと思うのだが、東京まで行く時間をとるのは、困難なばいもあるのだ。
- ✓ 新しい機能の具体的な説明をしていただけたので、担当業務に関わる部分がある人には推奨したいと思いました。
- ✓ 文章だけでなく、実際の画面の変更点が見られることによるメリットが大きいと感じたため。
- ✓ Webでの参加は、より多くの方に周知を可能にすると考えられるから。
- ✓ iLis利用図書館職員は今後のために知っておいた方がよいと思う。
- ✓ まだ自分自身がCAT2020導入後にどのように対処すべきか十分に理解していないため、万全の自信を以て人に勧めるには躊躇された。
- ✓ WEB参加可能とするのが今回初めてだったということで、資料が不足しているなど失敗されたこともあったが、すぐ改善されたため。
- ✓ CAT2020に関し本会議ほど議論されたことはないと思うため。
- ✓ web参加だと、業務委託スタッフも業務の妨げにならずに参加できるため。

■ 本日の分科会を実施して、開催テーマに対して得られた研究成果(疑問や課題等含めて)をお書きください

(会場参加)

- ✓ 今やるべきこと、各スタッフに共有すべき情報が明確になった。
- ✓ CAT2020の対応のタイミングと費用を考えないと気づいた。
- ✓ 自分の持っていた懸念がまちがっていなかったと思いました。
- ✓ 以外に時間に余裕がなくなってきたこと
- ✓ CAT2020は、目録以外の担当にも関係するということ。
- ✓ 並立書誌
- ✓ 委託業者への指示の出し方、マニュアル見直しなど必要な部分が見えてきた。relationの精度については、実際に見てみると何とも言いえないが、安定したデータになるのか不安がある。
- ✓ 大変、役に立った。実装するときの参考となりました。
- ✓ CAT2020について改めて問題意識を持た。
- ✓ RelationのOPACでの見え方にもっと気を付けたいと感じました。
- ✓ CAT2020に関しては大学ごとに対応内容が異なる可能性があるためSEの方と密に相談をしたいと思います。
- ✓ 書誌の精度の維持と利用者の必要度について改めて考える機会を持たれたこと、ILLへの不安が高まったこと。
- ✓ 利用者あつての図書館なのでやはり利用者への対応が1番の課題。富士通とだけではなく他大学とも情報共有していきたい。
- ✓ そもそも何も分からなかったのが、概要が理解できました。今後、掘り下げて課題をみつけていきたいです。
- ✓ ユーザー会なのでしようがないですが、常時参加しているメンバーには、他のシステムを導入している大学があるので、グループでILISとその他を分けてほしい。
- ✓ 特に準備もいらず、当日を待てばよいと思ったが、2020年以降多少の混乱は覚悟しよう。
- ✓ 特にVOL積みの書誌を物理単位とする際、および並立書誌を作成する場合も、複数キャンパスに図書館がある場合、大学内で統一のルールを決める必要がある。

(Web参加)

- ✓ いただいた資料を元に、どのような運用になっていくのか、課内でも議論が必要だと感じた。
- ✓ 実際に試してみなければわからないことが多かった。
- ✓ 来年度行うべきCAT2020対応の進むべき方向が見えてきたように思います。
- ✓ CAT2020対応は完全にフィックスしていないこと（NIIの方針が確定していないこともあり）。
- ✓ そもそもCAT2020とはの大前提の解説がなかった為、正直疑問点は多いです。
- ✓ いろいろ使いやすいようにシステムを考えてくださっているのは分かりましたが、CAT2020にする必要性がわかりません。かえって混乱するのでは？
- ✓ 元々の把握していた情報に加え、iLisにおいてどのような対応を予定されているのかが知れたことは非常に有意義だったと感じる。
- ✓ ILL業務について 貸借依頼時、タブを消すことで候補から排除するのではなく、タブ選択して決定の形に変えられないだろうか。（誤注文を避けるため）
- ✓ 新コーディングマニュアルや、目録情報の基準第5版などで、並立書誌が形成されるための基準が記載されている箇所を教えてください。
- ✓ 整理係を担当させていただいているので、特に目録部分の新しい機能の説明がとてもためになったと思います。横に並べて書誌を比較できる書誌比較や、NCIDの異なる書誌をダウンロードできるといった機能が追加・変更されれば、業務がより効率的になると感じました。
- ✓ ILL貸借時の資料の同定に不安を覚えた。
- ✓ VOL積の廃止はともかく、複数書誌の併存状況での実際の業務が、なかなかイメージしにくい。
- ✓ PREBOOKはどのMARCが由来となっている書誌か判断が行えないはずだということがわかって驚いたとともに、業務を簡素化するのであれば何を以てしてデータを信用するか判断できる材料が分かりやすい方がよいと改めて感じました。
- ✓ CAT2020の仕様変更に対する現場としての要望。

■ 次回以降取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- ✓ 引き続きCAT2020の状況と、電子リソースについて取り上げてほしい。
- ✓ 武庫川女子大学図書館の見学。
- ✓ CAT2020について引き続き。今回参加できなかった館員もいると思うので。
- ✓ 目録とILLで分けてほしいです。
- ✓ 図書館分科会など、図書館を見学したい。
- ✓ 利用者サービスにシステムができること。
- ✓ クラウド化について、データセンターを使う以外の選択肢があるのか知りたいです。
- ✓ 世界の図書館界の動向。丁度映画「ニューヨーク公共図書館 クス・リプリス」が上映されたり、ERMSや電子書籍の目録リソースの関心が高まっている為。
- ✓ CAT2020関連
- ✓ 著作権とILLについて
- ✓ OPACの仕様についてはもう少し詳しい説明会があってもよいのではないか。
- ✓ オープンサイエンスに対する図書館の役割。
- ✓ 「CAT2020：その後」の展開：カスタマイズなどの事例を交えて

4. 参加者

[会場参加] 大学[31校52名] 企業他[6社22名] 計[74名]
 [Web参加] 大学[22校53名] 企業他[7社15名] 計[68名]

(会場参加)

学習院大学[1] 神奈川工科大学[1] 関東学院大学[1] 神田外語大学[2] 杏林大学[1] 共立女子大学[2] 國學院大學[1] 国土館大学[2]	芝浦工業大学[2] 首都大学東京[3] 順天堂大学[1] 専修大学[2] 千葉工業大学[4] 中央大学[4] 中部大学[1] 帝京大学[2]	東京医科歯科大学[1] 東京歯科大学[2] 東京都市大学[1] 東京農業大学[2] 桐朋学園大学[2] 東邦大学[2] 東海大学[2] 日本工業大学[1]	放送大学学園[1] 武蔵野美術大学[1] 明治大学[2] 名城大学[2] 立正大学[1] 龍谷大学[1] 流通経済大学[1]	紀伊國屋書店[1] アイビスジャパン[1] システムズ・デザイン株式会社[1] 東京コンピュータサービス株式会社[4] フォーサイトシステム株式会社[2] 富士通株式会社[13]
--	---	--	--	--

(Web参加)

亜細亜大学[1] 大阪市立大学[10] 鎌倉女子大学[1] 神奈川大学[1] 神田外語大学[1] 群馬県立女子大学[2] 神戸学院大学[5]	國學院大學[1] 常翔学園大阪工業大学[3] 成城大学[4] 摂南大学[3] 高崎経済大学[2] 千葉工業大学[1] 東京農業大学[3]	日本工業大学[1] 広島国際大学[1] 福岡教育大学[2] 放送大学学園[1] 宮崎公立大学[1] 明治大学[2] 龍谷大学[6] 流通経済大学[1]	KINOKUNIYA COMPANY LTD.[1] 国際日本文化研究センター[1] 東京コンピュータサービス株式会社[2] 日本貿易振興機構[3] 農林水産省農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター[1] 富士通株式会社[7]
--	--	--	--

5. 所感

CS研では、2020年に施行されるCAT2020に関して、これまで、技術的なご説明はお客様に行ってきましたが、実際のご担当者の運用がどのように変わるのか？、またシステム開発側と利用者の間で乖離が発生するのでは？などに関しては議論・確認の場はありませんでした。今回、皆様のご要望に応えるべく分科会を開催いたしました。業務の為に大学を留守にできない皆様を想定し、今回は初の試みとしてWeb配信をいたしました。おかげさまで多くの皆様にご参加いただきました。グループでの意見交換会での気づきや課題の共有はご参加者皆様にとおきましては貴重なお土産になったことと思います。Webにてご参加の皆様、映像や音声の乱れによりご迷惑をおかした場面があったかと思ひます。今後、改善に努めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

(事務局)